



#ふくし
デザイ
ン
小会議

令和7年度 地域福祉ワークショップ
実施報告書

令和8年2月



中央区・中央区社会福祉協議会



【目次】

地域福祉ワークショップの目的 1
グループワークの流れ 3
グループワークの結果 4
資料編(プログラム、写真、アンケート結果) 10

1 地域福祉ワークショップの目的

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定、令和3年3月には中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会がより一層連携を強化して「地域共生社会」の構築を目指すこととしたところである。

「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」という基本理念にあるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取り組みはもちろんのこと、区民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要である。

地域福祉ワークショップは、参加者同士の自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合い、横のつながりを深めるとともに支えあいの地域づくりを推進することを目的としている。

2 主催

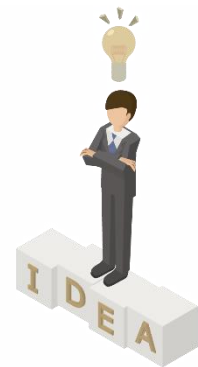
中央区・中央区社会福祉協議会

3 開催日

令和8年1月 23 日(金) 18:30～20:30

4 参加者数

19 名(定員 25 名、申込者数 20 名)



5 当日のスケジュール

タイムスケジュール	
1. オリエンテーション	プログラム説明
2. 講演 (20分)	「中央区における支え合いのこれから ～福祉・防災の面から～」 講師:駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
3. 報告 (10分)	「区内の地域活動拠点について」 中央区社会福祉協議会・事務局 職員
4. グループワーク (80分)	講義を踏まえ、グループで話し合いを行います。
①説明(5分)	●ファシリテーター 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
②話し合い(45分)	●サポーター
③発表(20分)	中央区社会福祉協議会 職員
④総括(10分)	①テーマに沿って話し合います。 ②グループで話し合った結果を発表します。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイスをいただきます。

(120分)

6 報告「区内の地域活動拠点について」

区では、令和2年に策定した「中央区保健医療福祉計画2020」の基本施策2「気づきあい支えあいつながる地域づくり」における取組の一つとして、地域活動拠点の整備を進めている。地域活動拠点は、身近な地域で地域住民が集まり定期的な活動を行う場、参加者同士つながりを深める場として今日まで機能してしてきた。

現在区内には3か所の地域活動拠点(勝どきダイルーム、はまる一む、ツキチカ!)を設置しており、その活動状況を報告し、地域活動拠点の概要について紹介した。

7 グループワークの流れ

4つのグループに分かれ、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員等が加わり、テーマに沿って意見交換・集約を行った。

- ① 自己紹介
- ② 「司会」と「発表」を決める
- ③ 講義内容を踏まえ意見交換のテーマを確認
- ④ 個人ワーク(付箋に意見や思いを書き出す)
- ⑤ 付箋をもとに意見交換を行い、要旨を模造紙にまとめる
- ⑥ グループで話し合った意見を発表
- ⑦ ファシリテーターからの総括コメント



(講義内容)

- ・地域活動の燃料(原動力)は「共感原理」である。
- ・地域のニーズ(困りごと/課題)を知り、そのニーズに共感し、自分たちに何ができるのか考えることが、新たな活動への一歩につながる

(意見交換のテーマ・ヒント)

地域活動・地域活動拠点のあり方について～思いを共有しよう～	
地域の特徴	・ 地域の特徴、好きなどころ
気になっていること	・ 地域の心配事、気になっていること
地域活動の魅力	・ 地域活動の魅力、参加した(したいと思った)きっかけ
気になっていること	・ 地域活動の心配事、気になっていること
地域活動拠点でやりたいこと	・ こういう活動があると良いのでは?活用のアイデア ・ どうすれば地域活動拠点を周知できるか
私ができること 必要なもの	・ アイデアを実現するために私(私たち)ができること ・ アイデアの実現に必要な仕組み(ヒト・モノ・カネ?)



2グループ

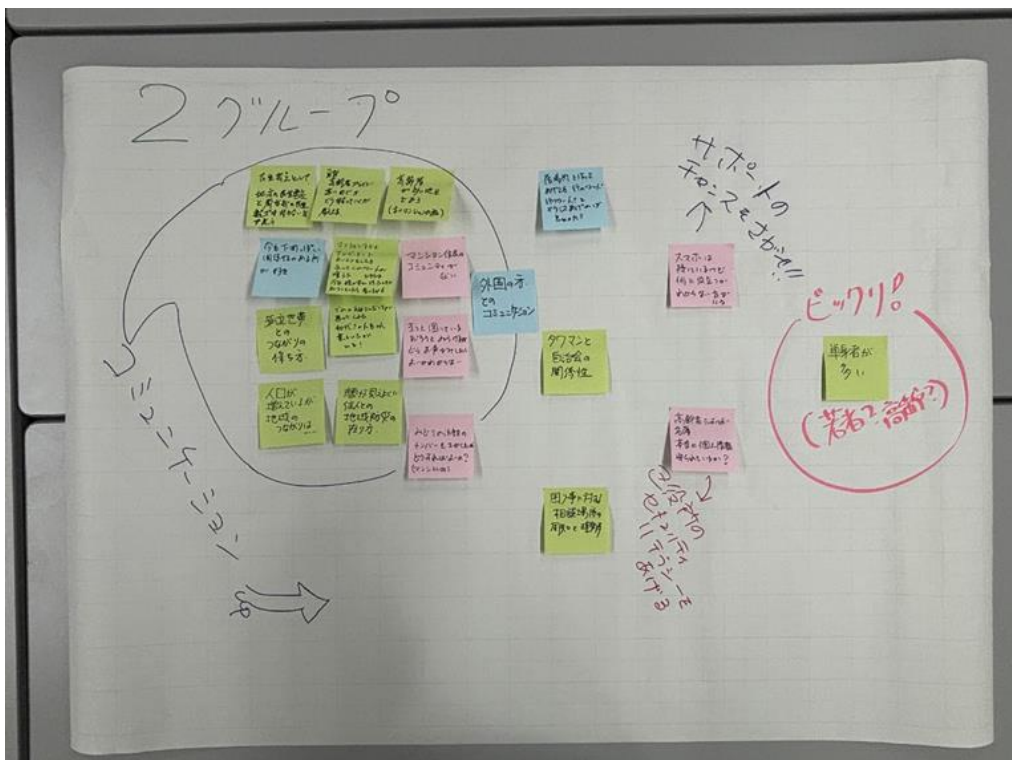
2グループは、まずは意見を出してみようということで、最初はそれぞれ出してみました。そうしたらなんと、類は友を呼ぶのか、みんなの関心がコミュニケーションにあったということが見えてきました。話の軸は、中央区は高層マンションがたくさんあって、元々住んでいる方や、最近では外国の方も流入してるということで、この関係性をうまく保っていくことがなかなか困難だよ、ということでした。

エピソードとして挙げたのは、インターホンを押しても来ないでくれとか、繋がりにたくないんだよと言われてしまう。地域のコミュニティセンターのイベントに参加してみたけれど、私にはまだ必要のないものかもしれないと感じてしまって、(そう感じたのは)どういうところからなんだろう、同じように感じる人ももしかしたらいるかもしれないよねというような話がありました。

そこから見えてきたのは、社会との繋がりが充足している人は、もしかしたらまだ繋がらなくてもいいかもと思うのかもしれないし、反対に、そうでない人は、もっと繋がった方がいいのかもしれないということでした。ただ、そうでない人がどうやったら繋がるんだろうか、というところは、解がないのでどうしようかということで、一旦話は終わりました。

また、課題として挙げたのは、単身の人がどう繋がったらいいのかということです。家族がいたり地域と元々繋がりのある人は良いとしても、単身者の人は自分からその地域との関係性を作っていくのはなかなか難しいですよ。そういった課題をどうしたら良いんだろうね、とか、繋ぐ先があって繋ごうと思っても、繋がりを絶ちたい、遠慮したいっていう方もいるので、そういう方の繋がりを作るというのは苦勞するよね、という話が挙がりました。

一番のポイントはやはり、コミュニケーションというものをどう保っていくのかということですよ。課題感として捉えたり、もう少し自分たちで考えていかなきゃいけないことだよ、というのがポイントだと思います。



3グループ

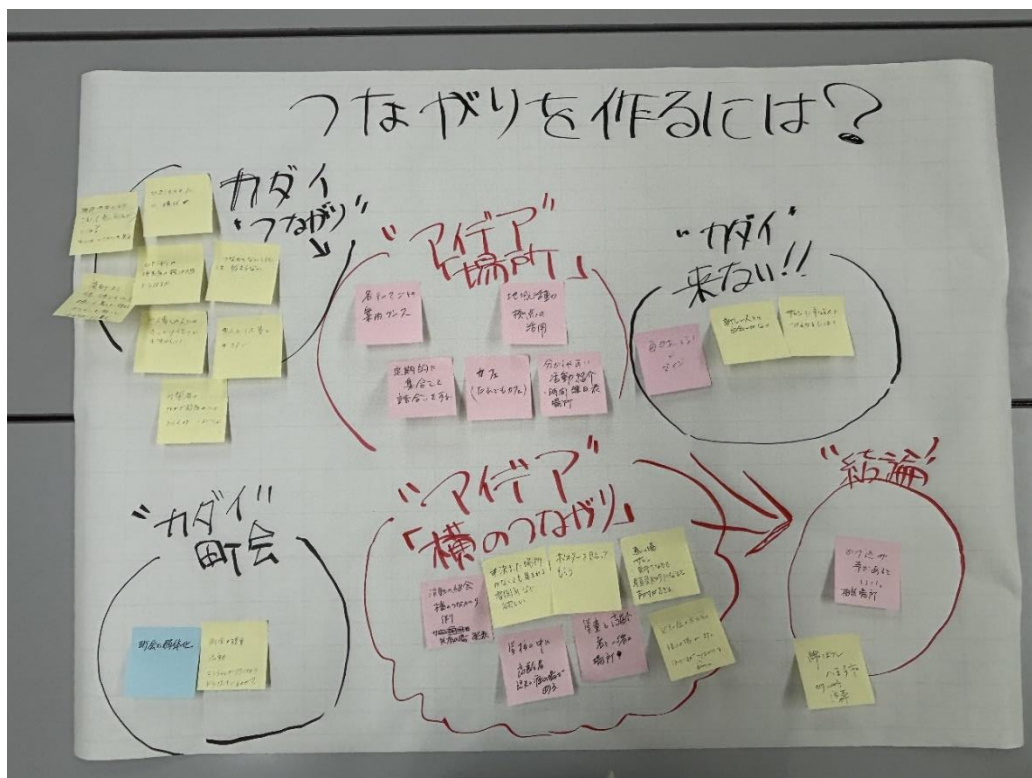
3グループは、ほかのグループでもあったように、課題は「繋がってない」ということで、繋がりを作るにはどうしたら良いかを話していました。具体的な課題としては、引きこもりや、障害者の親なき後、高齢者のひとり暮らしが多いなどが挙げられました。

高齢者のひとり暮らしが多いということで、ではどうしたらいいかを考えました。意見としては、各地域の地域活動拠点の活用や、定期的集まって話し合いをする、誰でも集まれるカフェを作ったらどうかなどが出ました。それから、わかりやすい活動紹介も必要なのではないかという意見もありました。そしてこれらに共通することは、「横の繋がりが大事」だということでもまりました。通いの場や、サロン、見守り活動など、とにかくまず顔見知りになるということが、重要だと考えております。それでも現実問題としては、なかなか来ないんですよ。

ではどうしようかということで、いつでも空いている駆け込み寺みたいなのがあった方が良いのではないかと意見が出ました。「いつ来ても良い」というところがポイントとして欲しいということでした。

八王子にはわたぼうし(※)という施設があって、一人暮らしの方や認知症の方、引きこもりのにも優しい施設です。そういうのを見習って、同じような場所を作っていきたいなと思っております。

※八王子ケアラズカフェ「わたぼうし」:全国的にも珍しい常設型のカフェが開設されている。スタッフには、認知症支援に関して必要な知識と経験のある職員(認知症アドバイザー)や家族の介護経験のあるボランティアの方等がいる。(八王子市 HP・わたぼうし HP より引用)



【講師講評】

コミュニティの再構築というのは、言葉では綺麗事で簡単なようだが、切り結んで一人一人が繋がっていく営みなので、いっぺんにやろうとしても無理。でも諦めずに少しずつでも続けていっていただけたらと思う。

★住民活動になかなか出てこない。繋がりにたくても、声をかけても拒否をされて繋がらない。これは、講義の中でも触れたように、人の行動原理というのは使命感か、共感か、得することか、楽しいことか。このどれかを揺さぶらないと、心の扉を開いてくれない。つまり出てこない。

活動が楽しそうだと思えば、お金をもらえなくてもやるし、もっと言えばお金払ってでもやる。趣味に対してはお金払ってでも行くということと同じ。お金をくれるからやる、(というのはつまり、仕事になるわけだが)という参加の動機もある。そうでないならば、使命感か共感で、(これはつまり無償のボランティア活動になるわけだが)どちらかが刺激されないと、人はおそらく出てこない。

だからそこをうまく刺激する方法を、試行錯誤し続けなくてはいけない。ひとつ誰かにヒットしたからといって他の人にそれがヒットするとは限らないから、色々な方法を試していかないといけない。

★最近はある程度プライバシーが守られていて、コミュニティの相互監視社会の中にいるということを是としめない風潮が定着している。「ちょっと首を突っ込んでみたがそれ以上は無理、と言うと人間関係が悪くなりそうだから、最初から関わらない方がいい」というように、人間関係の距離感を置きにいつている。

仲間を増やしたいのであれば、「あまりのめり込まなくてもいいよ、役員を引き受けなくてもいいよ、継続してお手伝いしなくてもいいよ」というような「間口」を用意しないと、入ってきてくれない。次世代に責任を押し付けるような後継人材育成ではなく、もっと緩い形から、段々と心の扉を開けていくしかない。

今は地縁型の組織よりも、アソシエーション型、テーマ型というような、「まずは自分の身になる活動」に注力する。地縁型の組織で解決していこうというの、もしかしたら限界が見えてきているのかもしれない。先ほども述べたように、人間関係の距離感が変わってきているということ、町会自治会、あるいは地区社協(※)というような、地域を基盤とした近隣関係で支援活動をするというのが、もしかしたら、限界に達しているのかもしれない。

ただ、私は決して限界に達しているとは思っていない。若い世代の人たちも、子育て支援サークルのように、当事者のことであれば、一生懸命お手伝いする。では、なぜ地区社協に入らないか、なぜ地域の活動に関わらないかということ、会費を払って町会や地区社協に入ると、お年寄りを支えてくれという話になるから。それは今の自分たちのテーマではないし、関心のあるテーマではないから。

後継人材がいらないと言っている「私たちの言う人材」というのは、私たちのお眼鏡に適う人材、私たちが作ってきたものをそのまま継承してくれるような人材、というのを求めているのかもしれない。

れない。でも、時代のテーマに合った地域組織の新しい活動のあり方、若い人たちも入りたいと思える活動のあり方というのを考えていかないと、高齢者ばかりが集まる。高齢者に集まってもらって地域の課題を出し合いましょうと言っても、自分たちの問題しか出てこないわけで、若い子育て世代の人たちのテーマが置いてけぼりになってしまう。

だから、私たちは高齢者だけをテーマにした活動だけではなく、他のテーマも取り入れていくことが大切である。

★孤立しがちな人たちの中には高齢者、あるいは障害者、その本人を支える家族の方々がいて、その当事者組織を刺激しないといけない。組織への加入者が減ってきていてなかなか難しいが、地域の中で孤立しているという話をよく聞く。

とある自治会の障害部会に招かれた際、防災に関するグループ討議が始まった。視覚障害の人が、「私はもう目が見えないから、避難所に行く意義はない」とか、発達障害で音に敏感なお子さんを抱えている保護者の方が「うちの子は音に敏感だから避難するなら(音が遮断できる)音楽室でないと駄目」と言う。では、それぞれの障害の特性や思いについて、要望をちゃんと自主防災組織や町会自治会に伝えましたか、防災訓練に参加してその責任者と事前に話し合いましたかと聞いたら、話し合っていないと。でも、いざ災害が起こって避難所に行くと、うちの子は音に敏感だから音楽室を用意してくれと言ったらこれはただのクレーマーになってしまう。日頃から、自分の方から「うちの子はこういう状況で、避難所に行くことはできるでしょうか」と、町会長さんなどに相談すれば、町会長さんも役員を集めたり検討を重ねてくれて、もしかしたら地区防災計画の中に障害配慮の避難スペースを確保することを考えてくれるかもしれない。

私たちの多くは、福祉の話から入ると、「関心のないテーマ」になってしまう。でも、地域の中で、例えば防災の話テーマに掲げれば、もっと多くの人たちが自分事として感じてくれるのではないかと思う。もちろんまずは、自分で自分を守るように、自己責任でやらないといけないけれども、「共助で(地域で)守り合うような取り組みも一緒にやろう」という形で広げていけば、その延長線上に必ず日常的な生活支援の話も入ってくる。

「災害時に困っている人は、平素も色々な場面で不自由を感じている」ということに気が付いて、人間関係ができていけば、ほっとけないということにもなってくる。コミュニティの再構築というのは、一人一人が繋がっていく営みであるから、一度にやろうとしても難しい。でも諦めずに、少しずつでも続けていっていただけたらと思っている。

※地区社協:地区社会福祉協議会。身近な地域単位(小学校区など)で、住民同士の助け合いや福祉のまちづくりを目指す自主的な住民組織のこと。

9 資料編

●ワークショップの様子



講演「コミュニティのこれからと地域活動について」



講演(全体の様子)



グループワークの様子(1グループ)



グループワークの様子(2グループ)



グループワークの様子(3グループ)



グループワークの様子(4グループ)



発表(1グループ)



発表(2グループ)



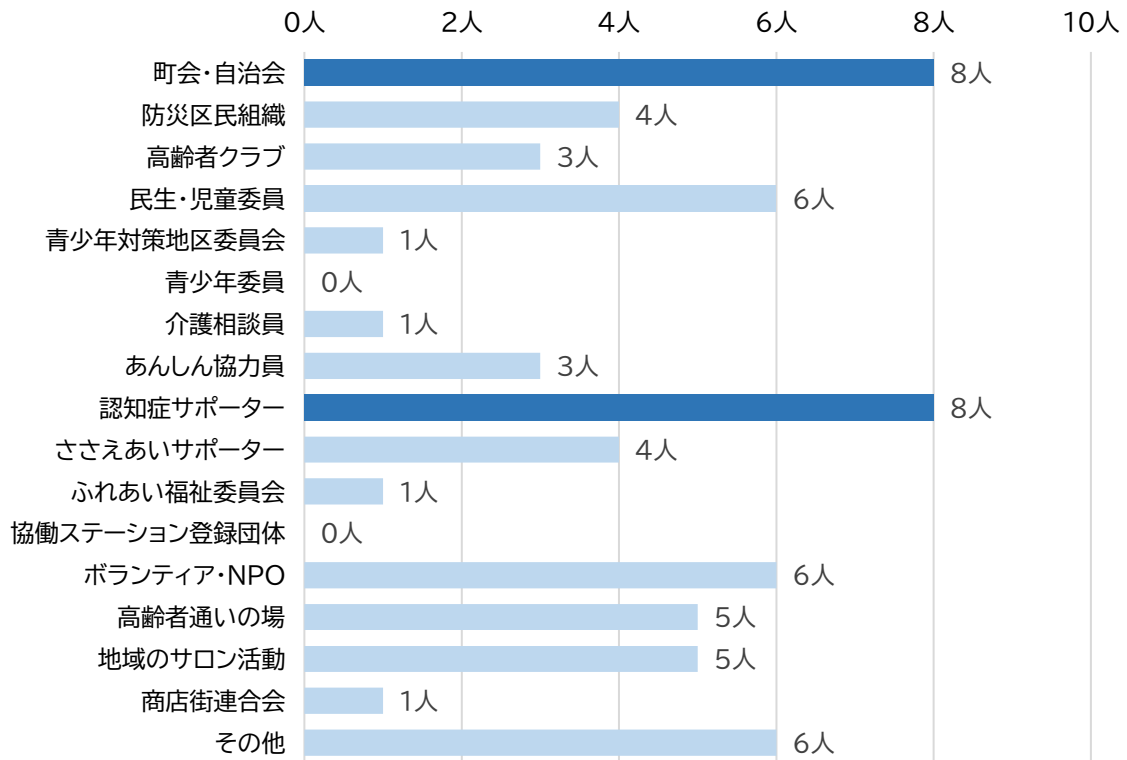
発表(3グループ)



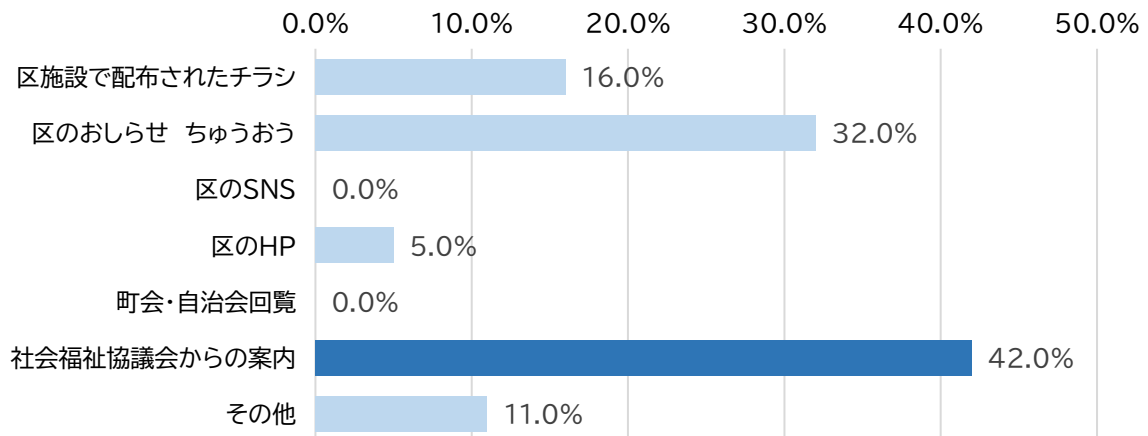
発表(4グループ)

●アンケート結果(回答者数:19名)

問1 どのような地域活動をしていますか(あてはまるものすべてに○)



問2 今回のワークショップを何で知りましたか。(あてはまるものすべてに○)



【その他の回答】

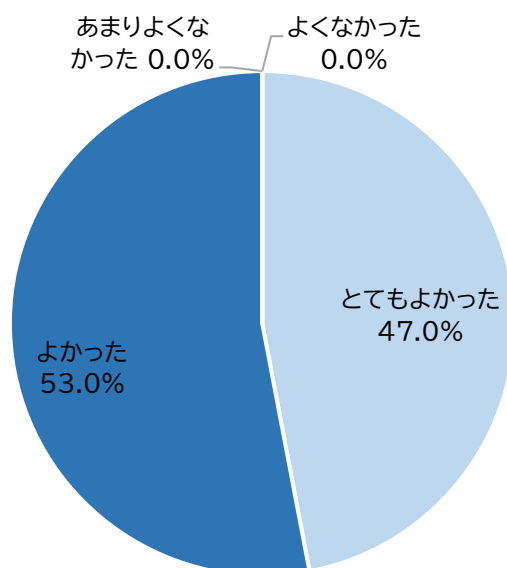
・参加者から誘われた

問3 今回のワークショップに参加した理由を教えてください。

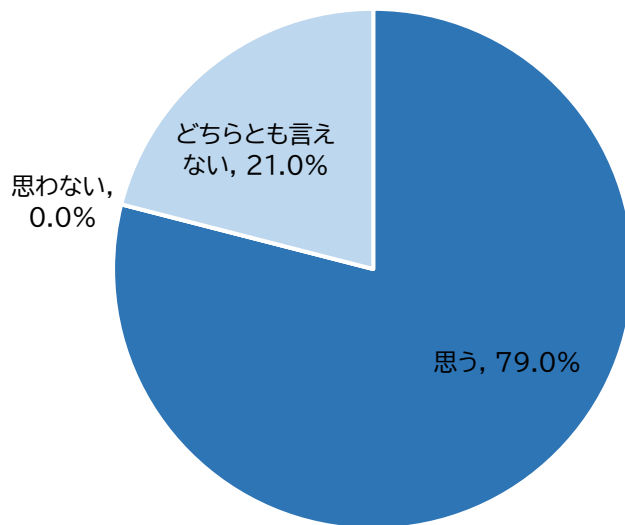
【自由記述】

- ・ 情報交換の場と今後の活動の参考に
- ・ 福祉に興味があるので
- ・ 地域をすすこれからの思いを知って参加した事に次回も参加したいと思いました
- ・ 参加する皆さんがどのような事に関心があり、どのような意見が出るか興味があった
- ・ 昨年参加して楽しかった
- ・ 中央区の福祉の方向を知りたい
- ・ 講義が面白そう、時間帯が都合が良い
- ・ みんなとつながりたい
- ・ お誘いを受けたから
- ・ 多様な人がボランティアをしに来てくれます。不登校や認知症のはじめてきた方、外国の方、みんなで支えあってゆきたいので何か学べるのではと期待して参加しました。
- ・ さそわれました
- ・ 毎回参加しています。みなさんの意見を聞いて勉強になります。
- ・ 「#ふくしデザイン小会議」の表現に惹かれて。防災にも興味あるため
- ・ 地域のことを考えるなかで大切なのは希薄になったつながりをどうしたら取り戻せるか？東京都の誰も取り残さないスマートシティ「スマートインクルーシブシティ実現プロジェクト」参加中。竹芝、大丸有、豊洲で実証したのに、中央区が中抜き！中央区でもやろうよ！と。
- ・ 地域福祉や地域防災に関心があるから

問4 今回のワークショップに参加していかがでしたか。(1 つに○)



問5 今回のワークショップは、今後の地域活動に活かせると思いますか。(1 つに○)

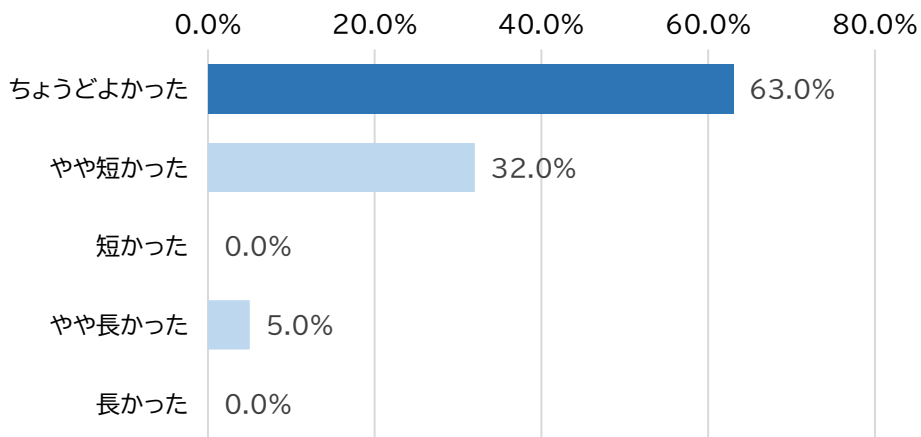


問6 問5の回答についてお伺いします。その回答理由についてお聞かせください。

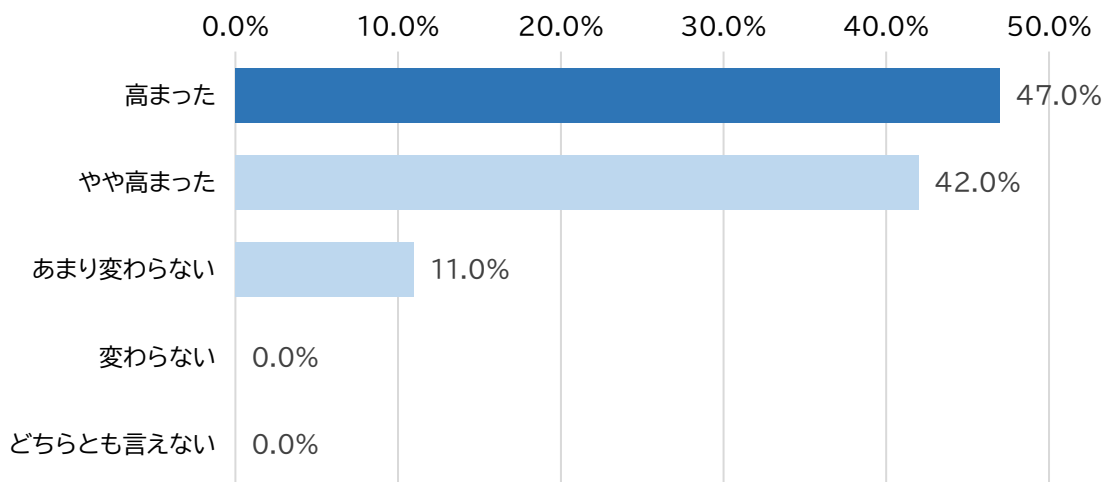
【自由記述】

- ・ 少しでも区民が今後の福祉について考えるチャンスが必要。防災についての啓発にもつながる。
- ・ テーマによって人は興味を持つ・中央区の方の人となり、地域活動の中で近所付き合い・刺激になるとは、、、町内会の現状・押し付けないゆる～くいつでも1回だけでも参加可
- ・ 活かしたい！
- ・ 努力はします、、、が結果はわかりません
- ・ 同伴プログラムは介護予防にもなり、ポイント制のインセンティブなんかにつなげて良いと思った。(紹介ポイントとか)
- ・ 多様なご意見が伺えて良かった。アクションが取りづらいのが少し課題(ヒントはもらえたが、具体的にどうすれば良いのかまだわからない状態)
- ・ 若者の取り組みには若者のニーズをとらえることが必要
どんな形であれつながる装置になっていようと今活動していることに意義があることと思えた
- ・ いろんなアイデアがきけました～
- ・ 前向きに考えている
- ・ 町会等の各活動や NPO 運営方法が参考になった
- ・ どんな社会的な処方をするのか、実証、試行に繋がっていくとイイなあ、と。

問7 ワークショップの話し合いの時間(長さ)はいかがでしたか。(1つに○)。



問8 ワークショップに参加して地域福祉に対する関心は高まりましたか。(1つに○)



問9 今後ワークショップで話したい内容、興味のあるテーマがありましたらお書きください。

【自由記述】

- ・ 防災について
- ・ 情報が沢山持てることは大事。楽しく学べました
- ・ どこで「つながり」を見つけるか？
- ・ 居場所作りだけでなくアウトリーチなども話したい。
- ・ ワークショップの進め方を工夫してはどうか？まず何を出しあうのか→どうまとめるのか(まともなくても一つでも解決策が出たらラッキー)
- ・ 楽しい防災活動(毎日できるレベル)
- ・ 防災と福祉
- ・ 町会のことを一面的にしか知らないのもっとよく知りたいと思いました
- ・ 災害弱者における防災対策。例えば認知症の方、視覚、聴覚障害者の方等の自宅避難でのポイント、防災拠点での配慮等

- ・ つながりをを復活させる方法。何か具体的にないか？(常に開かれてる駆け込み寺)
- ・ 合理的配慮が充実した地域はソーシャルキャピタルが高い、との仮説を持っています。中央区から検証していきましょう！
- ・ 子育て

問 10 本日のワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

【自由記述】

- ・ まだまだ話し足りないと思いました。
- ・ 4班、それぞれの思いに感動しました。ありがとうございます。
- ・ ここに来る方はコミュカが高いです。
- ・ ありがとうございます。テーマとゴールがもう少し明確になると良いと思います。あと利活用ですね。
- ・ 参加者をもっとふやせる、固定化しない工夫があればと思います。
- ・ 楽しく過ごさせていただきました。
- ・ とても貴重・とても学びの多いWS でした。ありがとうございました。
- ・ いつものメンバーかと思いましたがやるたびにちがうお話がきけてよかったです
- ・ ありがとうございます
- ・ グループ以外の方とも交流ができればと思った。プライバシー保護で名簿作成など難しいのですが、どのような方がいらしているのか知りたかった(後で連絡したい場合あり)
- ・ 各グループの結果を口頭発表だけでなく、文書等で共有できれば良いと思います
- ・ 先生のお話でつながりを防災の視点からとらえていくとみつかるのかなと思いました。またカフェとかサロンとかたくさんあるのですが出てくる人はいつも同じ人。出てこない人をどうつなげていくかが課題です。その意味で時間は短くても毎日空いてるカフェがあるといいのですが。とは思っても予算 場所 マンパワー 前途多難ですね。
- ・ アウトカム/インパクト評価と具体的な社会的処方について、当事者も交えて議論しましょう！
- ・ 様々な立場、年代の方とのお話しの中から自分にはないアイデアや状況を知ることができました。よい機会でした。

10 さいごに

ワークショップで出されたご意見やアイディアは、地域カルテ更新や地域活動拠点の活用などに向けた参考資料として活用する。